

VI 令和4年度「文化芸術による子供育成総合事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の有無(該当する方を選択してください。)

複数申請の有無	無
---------	---

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

その他を選択した場合	
------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	ごうどうがいしやおおくらりゆうきょうげんやまもとじむしょ 合同会社大蔵流狂言山本事務所		
代表者職・氏名	代表社員 石井倬巳		
制作団体所在地	〒166-0012		
	東京都杉並区和田1-55-9		
電話番号	050-3555-2465	FAX番号	03-3384-6970
ふりがな 公演団体名	おおくらりゆうきょうげん やまもとかい 大蔵流狂言 山本会		
代表者職・氏名	大蔵流狂言山本家当主 山本東次郎		
公演団体所在地	〒166-0012		
	東京都杉並区和田1-55-9		
制作団体 設立年月	2006年 6月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	業務執行社員(代表社員) 石井倬巳 業務執行社員 山本東次郎	団体構成員9名(演者8名、事務局1名) 大蔵流狂言山本会に所属	
事務体制の担当	他の業務と兼任	本事業担当者名	向井麻里子
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	石井倬巳

制作団体沿革	1911年(明治44年)1月、山本舞台(杉並能楽堂の前身)の完成披露狂言会を機に、二世山本東次郎(1846-1935)によって任意団体「山本会」を創始。 1946年(昭和21年)5月、三世山本東次郎(1898-1964)により、全国の児童学生を対象とする巡演を開始。敗戦後、アメリカ文化一色に染まっていく日本を憂い、狂言を通して若者たちに日本の古典文化の真髄を伝えていくことを悲願とする。その活動が認められ、狂言辞典に「三世則重(東次郎)は、狂言の青少年層への普及を意図して全国の学校巡演に先鞭をつけ、また積極的に推進し、これは四世東次郎則寿にも受け継がれて、東次郎家の特色となっている」と掲載される。 2006年6月、任意団体「山本会」を継承、発展させるために、合同会社大蔵流狂言山本事務所として法人設立。現在は、四世山本東次郎(人間国宝)を主とし、狂言の普及、後継者の育成に努めている。			
学校等における公演実績	平成30年度「柿山伏」「附子」演目 74公演 他、ワークショップ、アウトリーチ、教員向け公演等、多数開催 平成31年度「柿山伏」「附子」演目 67公演 他、ワークショップ、アウトリーチ、教員向け公演等、多数開催 令和2年度「柿山伏」「附子」演目 27公演 弊社所属の狂言師は、東京都立芸術高等学校や埼玉県立芸術総合高等学校の講師を勤めている。横浜能楽堂が主催する「こども狂言ワークショップ」の講師を初回から現在まで継続して26年間勤めており、その模様はNHKEテレ「につぼんの芸能」にも紹介された。教科書に狂言が掲載されているものの指導に困っている教員のために、教え方講座を開催、教員の育成にも力を注いでいる。また、0歳から鑑賞できる狂言公演、ワークショップ経験も有り。			
特別支援学校における公演実績	・1999年 佐賀県立盲学校 ・2001年 宮崎県立赤江養護学校(現・赤江まつばら支援学校) ・2008年 鳥取県立白兎養護学校・鳥取工業高校合同鑑賞教室 ・2015年 神奈川県立三ツ境養護学校 ・2016年 長崎県立島原特別養護学校 ・2018年 広島県立尾道特別支援学校 ・2019年 長崎県立虹の原特別支援学校、長崎県立ろう学校 ・2021年 茨城県立協和特別支援学校、東京都立田園調布特別支援学校			
参考資料の有無	A	申請する演目のチラシパンフレット等	無	
		申請する演目のDVDまたはWEB公開資料	有	
		※公開資料有の場合URL	https://vimeo.com/467014178	
		※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	
			PW:	yamamotokai
	Aの提出が困難な場合	今回申請する演目に近い演目で公演の様子がわかる内容のDVDまたはWEB公開資料		
		※公開資料有の場合URL		
		※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	
			PW:	

公演・ワークショップの内容		【公演団体名 大蔵流狂言 山本会 】				
対象	○	小学生(低学年)	○	中学生		
	○	小学生(中学年)				
	○	小学生(高学年)				
企画名	教科書に載っている狂言「柿山伏」「附子」					
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	・狂言「柿山伏(かきやまぶし)」「附子(ぶす)」 ・小舞一番 ・お話「狂言の心と日本の文化」 (公演時間100分)					
著作権		制作団体が所有		制作団体以外が所有する事項が含まれる	該当なし	(制作団体以外が所有する事項が含まれる場合) 許諾状況
演目概要	・「柿山伏」あらすじ 修行を終えて遠路故郷に帰る山伏は、空腹のあまり途中にある柿の木に登って実を食べます。それを見つけ腹を立てた柿の木の持主は、山伏を散々にからかい、ついには山伏が柿の木から飛び降りるはめになります。脚を痛めた山伏。こちらも怒って逆襲に出ますが。。。 ・「附子」あらすじ 貴重品の砂糖に近付かせぬため「附子」という毒だと偽って出かけた主人。留守番の太郎冠者と次郎冠者はそれを怪しみ、決死の覚悟で「附子」に近付き、その正体を見破ります。すっかり食べ尽くしてしまった二人は帰宅した主人にとんでもない言い訳をします。 ・お話「狂言の心と日本の文化」 狂言を通して日本古来の物の考え方を解説します。					
演目選択理由	「柿山伏」は、平成17年度より光村図書出版国語教科書小学6年生用に当家家主山本東次郎の解説と当家狂言台本が掲載されています。 また、令和5年度まで継続して掲載されることが決定しています。 「附子」は一休さんのとんち話にもある、狂言の中で最もがビュラーな演目です。					
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	本公演当日、狂言鑑賞とお話終了後に演者指導の下、ワークショップを行います。 初めに児童生徒は発声練習を兼ねて狂言の笑い方や泣き方を体験します。 大きい声が出るようになったら事前に行ったワークショップで覚えた狂言小謡のおさらいをします。 その後、児童生徒だけで狂言小謡を謡い、その謡に合わせて演者が舞います。 狂言小謡は簡単な謡なので、事前のワークショップに参加できなかった児童生徒も当日のワークショップで覚えることができ、共演することができます。					
出演者	・山本 東次郎(やまもと とうじろう)(重要無形文化財各個認定(人間国宝)) ・山本 則俊(やまもと のりとし)(重要無形文化財総合指定保持者) ・山本 泰太郎(やまもと やすたろう)(重要無形文化財総合指定保持者) ・山本 則孝(やまもと のりたか)(重要無形文化財総合指定保持者) ・山本 則重(やまもと のりしげ)(重要無形文化財総合指定保持者) ・山本 則秀(やまもと のりひで)(重要無形文化財総合指定保持者) ・山本 濃太郎(やまもと りんたろう) ・若松 隆(わかまつ たかし) ※体調等の都合により、演者の変更がある場合があります。					
公演出演予定者数 (1公演あたり)	出演者: 6 名 スタッフ: 1 名 合 計: 7 名		機材等 運搬方法		積載量: t 車 長: m 台 数: 台	

【公演団体名 大蔵流狂言 山本会 】

実施に当たっての 会場条件	実施条件等確認書①をご確認ください。					
会場設営の所要時間 (タイムスケジュール)の 目安	前日仕込み	無	会場設営の所要時間		1 時間程度	
	到着	仕込み	本公演	内休憩	撤去	退出
	12時30分	12時30分～13時10分	13時30分～15時10分	10分	15時30分～16時10分	16時10分
	※本公演時間の目安は、午後1時乃至1時30分からの概ね2時限分程度です。					
児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ		100名前後			
	本公演		1,000名			
ワークショップ 実施形態及び内容	・狂言についてのお話 ・狂言についてのクイズ ・狂言の基本所作(立居・歩く・走る)と発声体験 ・本公演で共演する際に謡う狂言小謡の稽古					
ワークショップ 実施形態の意図	狂言は650年前にできた「台詞」と「仕草」の対話劇です。現代のように照明も音響もなく、舞台道具も最低限のものしかなかった時代に、台詞と仕草のみで観客に背景を見せながら物語を展開していく狂言は、演者の表現力と発声の正確さ、そして何より観客の想像力が必要になります。狂言クイズでは演者の表現と言葉を頼りに子供たちは想像力を働かせながら何をしているのか考え、答えを導き出し発表するアクティブラーニングを行います。体験では「型」と呼ばれる規則的な狂言所作を学び、礼節を身に付けます。					
特別支援学校での 実施における工夫点	先生方と緻密な打合せの上、子供たちに合った形でワークショップや本公演を進めていきます。本公演で共演する際に謡う狂言小謡は簡単な謡なので、特別支援学校の児童生徒でも覚えることができます。 また、言葉が覚えられなくてもリズムに合わせて踊ることができます。 過去にも実施経験があるので、その都度、臨機応変に対応します。					
実施可能時期	実施可能時期スケジュール表をご確認ください。					

狂言とは

狂言と能を合わせて能楽といいますが、能の主人公は有名な物語や伝説に出てくる人物、神、精霊などで、主人公の喜び、苦しみ、悲しみを、舞を中心に美しく表現します。いっぽう狂言は、田舎の大名や使用人、農民、僧や山伏、盲人など名もない普通の人が主人公で、日常生活の出来事のうちに、人間関係の楽しさ、悲しさ、愚かさなどを笑いや風刺に包んで表現しています。

狂言のルーツは、奈良時代に中国から伝わった「散楽」、稲の豊作を願う祭りで演じられた「田楽」までさかのぼることができます。散楽は物まね、軽業、奇術など、また田楽は田の神を祈る舞が中心になっていきます。狂言はこれらの先行する芸能を合わせ、能とマッチするような上品な面白さを求めたもので、しみじみとした歌舞劇の能に対し、ユーモアのあるセリフ劇ということができません。



●柿山伏(かきやまぶし) 修行を積んで故郷へ帰る途中の山伏。空腹に耐えかね、柿の木に上って柿を食べ始めました。そこへ現れた柿の木の持ち主、山伏をからかって、猿やトンビの真似をさせるのですが...



●附子(ぶす) 主人は太郎冠者と次郎冠者に猛毒の附子(じつは砂糖)を預けて出かけました。けれどもどうしても見てみたい二人。附子のほうから風が吹かないように扇であおぎながら、近寄って見てみようとするのですが...

■日本の伝統芸能に誇りを感じることができた。昔の芸能が今もまだ続いているということはすごいことだ。狂言は面白おかしいだけでなく、忘れていた何か大切なことを思い出させてくれるような気がする。(高3)



山本 東次郎

昭和十二年生まれ。三世山本東次郎の長男。山本会を主宰。平成四年度芸術選奨文部大臣賞受賞。平成十年紫綬褒章受賞。平成十八年度日本芸術院賞受賞。平成二十四年重要無形文化財各個指定(人間国宝)。日本芸術院会員。



章受賞。重要無形文化財総合指定。

山本 則俊

昭和十七年生まれ。三世山本東次郎の三男。平成二年度芸術選奨文部大臣新人賞受賞。平成十九年度文化庁芸術祭優秀賞受賞。平成二十四年旭日双光



山本 泰太郎

昭和四十六年生まれ。山本則直の長男。平成八年『釣狐』、平成十七年『花子』を披く。平成二十二年文化庁芸術祭優秀賞受賞。重要無形文化財総合指定。



山本 則孝

昭和四十八年生まれ。山本則直の次男。平成十五年『釣狐』、平成二十一年『花子』を披く。重要無形文化財総合指定。



山本 則重

昭和五十二年生まれ。山本則俊の長男。平成十六年『釣狐』、平成二十三年『花子』を披く。重要無形文化財総合指定。



山本 則秀

昭和五十四年生まれ。山本則俊の次男。平成十八年『釣狐』、平成二十五年『花子』を披く。



山本 凜太郎

平成五年生まれ。山本泰太郎の長男。平成二十八年『釣狐』を披く。



若松 隆

昭和三十四年生まれ。昭和六十年『文山立』のアドで初舞台。国立能楽堂養成課一期生。

大蔵流狂言 山本会

〒166-0012 東京都杉並区和田 1-55-9

Tel 03-3381-2208 Fax 03-3384-6970 / Tel&Fax 042-735-8788 (則俊)

<http://www.kyogenyamamoto.com/>

●全国各地の学校や公共ホールでの公演活動を行っています。お気軽にお問い合わせください。

【令和4年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－実施条件等確認書①】

ID	C41	分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽	ブロック	C	区分	A区分
公演団体名	大蔵流狂言 山本会				制作団体名	合同会社 大蔵流狂言山本事務所			

① 会場条件等についての確認

項目		必要条件等							応相談
控室について		必要数 *	1室	条件		舞台下手袖(舞台向かって左側)に設置希望。			可
搬入について	来校する車両の大きさと台数 *			乗用車	2台				—
	上記車両について「応相談可」の場合、内容詳細								
	来校する車両の内、横づけが必要な車両の大きさ			乗用車					可
	搬入車両の横づけの要否 *			要					可
	横づけができない場合の搬入可能距離 *			問わない					—
	搬入経路の最低条件			できる限り階段のない経路が望ましい。					可
	理由			舞台道具と装束を搬入するため。					
	設置階の制限 *			問わない					—
	搬入間口について 単位:メートル	幅	問わない		高さ	問わない		—	
	WSについて	参加可能人数	100名前後						可
学年の指定の有無 *		なし	指定学年 *				—		
所要時間の目安 単位:分		100分程度(休憩10分含む)						可	
本公演について	会場設営・本公演・メインプログラムの所要時間			※「出演希望調書」内「会場設営の所要時間(タイムスケジュール)」の目安を御参照ください。					
	鑑賞可能人数			1,000名					可
	舞台設置場所 *			体育館のステージ上					可
	舞台設置に必要な広さ 単位:メートル	幅	8m	奥行	4m	高さ	指定なし	可	
	体育館の舞台を使用する場合の条件	舞台袖スペースの確保 *			要				可
		舞台袖スペースの条件 *			下手袖に荷物が無い状態				可
		緞帳 *	不要		バトン *	要		可	
	遮光(暗幕等)の要否 *		不要	理由				—	
	ピアノの調律・移動の要否 (調律費・移動費は経費対象外です)	指定位置へのピアノの移動 *		不要	※指定位置は会場設置図面にて御確認ください。			—	
		ピアノの事前調律 *		不要			—		
	フロアを使用する場合の条件	バスケットゴールの設置状況 *		格納されていれば可			可		
	公演に必要な電源容量		問わない		※主幹電源の必要容量			—	
	その他特記事項								応相談
	舞台上にピアノがあつて場所をとる場合、移動をお願いすることがあります。								可

会場図面(表記単位:メートル)

搬入間口について	幅	問わない	高さ	問わない
搬入車両の横づけの可否	要			
横づけができない場合の搬入可能距離	問わない			

※搬入に関する条件の詳細については、図面上の表にて御確認ください。

